

お元気ですか？

第23号

2026年1月発行



「十日町の冬」 撮影者：宮澤 千佳

CONTENTS

- 富 企業長 新年のごあいさつ 2
- 富 七 両院長 新年のごあいさつ 3
- 富 患者満足度調査結果 4-5
- 富 紙上ナイトスクール☆ 慢性腎臓病 (CKD) ということばをご存じでしょうか? ... 6
- 富 シリーズ職場紹介 (外来) 7
- 七 職員インタビュー 看護部長、教えてください! 8-9
- 七 スタッフの活動紹介 10
- 七 リハビリテーションの関わり おうちに帰る準備 -階段昇降編- 11
- 富 七 地域医療連携だより 12

新年のごあいさつ



富岡地域医療企業団
企業長 佐藤 尚文

明けましておめでとうございます。お元氣ですかの読者の皆様はどんな新年を迎えたでしょうか？今年（西暦2026年、令和8年、平成38年、昭和101年）となりました。医療の現場ではこれらは混在しており、年齢早見表は貴重です。御自分の年齢計算はどうされていますか？

昨年は猛暑で当地でも42度を越えた日があり、全国的に見ても世界的に見ても豪雨災害や森林火災、そして干ばつなどが多発しました。木の実などの不作で勃発した熊の被害もこの延長線上にあることは明確です。ブラジルで地球温暖化対策

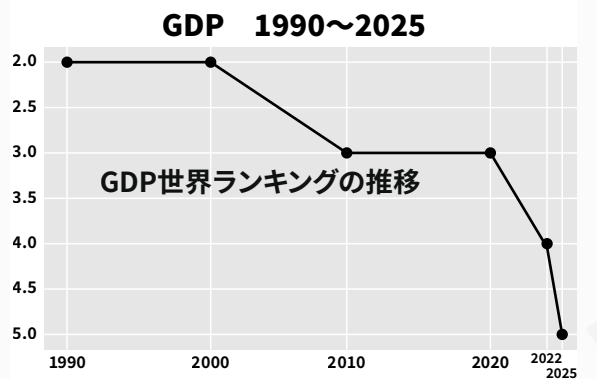


富岡地域医療企業団
公立七日市病院
副企業長兼院長 竹原 健

明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

新たな年を迎えました。2025年は世界各地で紛争や衝突などさまざまな困難が続く、多くの人々にとって浮き沈みの大きな1年でした。日本の病院におきましても新型コロナウイルス感染症の影響がまだ残り、経営面で非常に厳しい状況にあり、その多くが赤字の状態となっております。特に少子高齢化のさらなる加速により患者数の減少と物価・人件費の高騰が大きな課題となっております。

さて、2026年は「丙午^{ひのえうま}」です。十干の「丙^{ひのえ}」は、太陽のような明るさ、情



す。物価高騰と大幅な賃金上昇が重なりましたが診療報酬制度は変わらなかった結果です。更に昨年の参議院選挙で複数の政党が、若い世代の保険料引き下げ、消費税減税などを打ち出しました。国民医療費が上がる一方で、保険料を減らそうというのですから、どこかに打出の小槌が無ければ実行不可能です。選挙のための奇策としか考えられませんが、日本は嘗て世界第2位の経済大国でした。戦後、所得倍増計画や日本列島改造論のもと高度経済成長を遂げました。全てが頑張れば増える時代が確かに



富岡地域医療企業団
公立富岡総合病院
院長 宮崎 増美

新年あけましておめでとうございます。昨年は賃金の上昇を超えた物価の高騰や保険料の負担増など、生活に直結する課題が続きました。このインフレは、一時的なものとは思えません。病院経営も同じく、人件費、光熱費や医療材料費の上昇に直面し、急性期病院ほど経営が苦しくなりました。地域で「病院がなくなるのでは」というNHKの特集までありました。現役世代は家計のやりくりに悩み、高齢の方々も日々の生活費に気を遣う毎日です。

さらに令和8年は、医療制度改革に関する変化が進み

あったのです。しかしそれはすでに過去のこと、上にGDPのランキングを示します。2000年までの世界第2位から2025年は5位まで下がりました。アメリカ、中国、ドイツ、インド、日本の順位です。

物質や経済の豊さを成長や幸福の指標にする時代が終わって、これからは減少する物質社会と共に生き、限られた資源をリサイクルし、次の世代に可能な限り負の遺産を残さない覚悟が不可欠です。私たちは物質的豊かさが価値在るものと考えてきた幻想を捨て去り、心の豊かさを価値あるものとする社会を再構築していく以外に道は無いのではないかと考えています。溢れるばかりのネット社会の情報は、相変わらず物質的な表面的な刹那主義的な価値を繰り返し繰り返して放出しています。ここは落ち着いて心の目を開き、今の地球の現実に向き合い、これからの縮小時代を生きなくてはならない次の世代のために、新たな価値観を築きつつ、新しい日々を生きたいと思います。

そうです。そのような中でも、富総は「安心して受診できる場」であり続けることが使命と思っております。皆さんの病気に対応し、介護や在宅医療と連携することによって、皆さまの健康を支え、同時に地域社会を支える病院でなくてはなりません。私たちは分かちやすい説明と丁寧な対応を心がけ、皆さまが納得して医療を受けられるよう努力いたします。

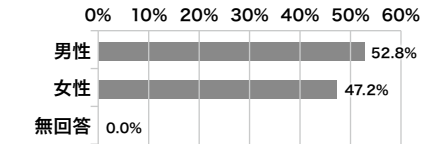
本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

外 来

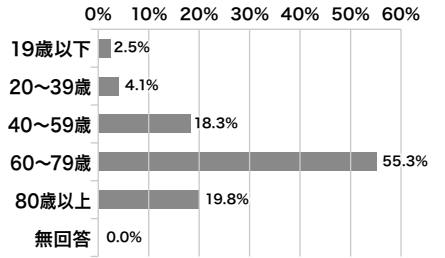
調 査 概 要

- 調査期間 令和7年7月22日（火）～25日（金）4日間
- 調査方法 無記名アンケート
- アンケート配布数 1,197人
- 回答者数 635人
（回収率53.0%/男性335人,女性300人,無回答0人）

回答者性別割合



回答者年齢区分割合



調査結果

満足度に関する質問に対して、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」の4段階評価で回答していただきました。

回答のしやすさと回収率の向上を目指し、web上で回答できるようにして、一定数のご利用をいただいております。

入院調査では今年度より、患者満足度向上委員会の委員が病棟に訪問して直接患者様に聞き取りをしてアンケートに参加回答してもらう方式を実施したため、アンケートの回収率が27.7%と前年度に比べ、飛躍的にアップしました。

内容面では入院満足度96.7、看護満足度96.7と各項目で高い評価をいただきました。今後は「病棟の雰囲気」「食事のメニュー、味付け」で満足をいただけるよう改善していきたいと考えています。

外来調査は、間に1日祝日が入ったことで、調査日数が昨年度より1日少ない4日間となってしまいましたが、より多くの方にご回答いただき、幅広いご意見をいただくことができました。外来診療の満足度は95.6%、その他の項目も概ね高い評価をいただき、昨年度よりも患者様の満足度がアップしております。しかし、「待ち時間」についてはいまだ不満の割合が多い状況です。待ち時間の改善が図れるよう努力してはいるのですが、劇的に事態が改善できるような有効策はなく、いまだ長時間お待たせするケースも見受けられ、たいへん申し訳ございません。今後も努力していきたいと考えています。

自由記載欄にいただいた感謝や激励のお言葉は、職員一同励みになります。また、ご要望やご意見は各部署で回覧し病院全体として受け止め、改善を図り今以上の評価をいただけるよう努めて参ります。

ご協力ありがとうございました。

令和7年10月16日 公立富岡総合病院 患者満足度向上委員会

アンケート調査へご協力いただきありがとうございました。
皆様からいただいた貴重なご意見は今後の病院運営に活用させていただきます。

令和7年度 患者満足度調査の結果について

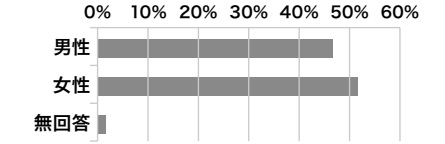
業務や医療サービスの質向上を図ることを目的として、以下のとおり患者満足度調査を実施しました。皆様からいただいた貴重なご意見をもとに、至らぬ点につきましては、今後の改善に努めて参ります。

入 院

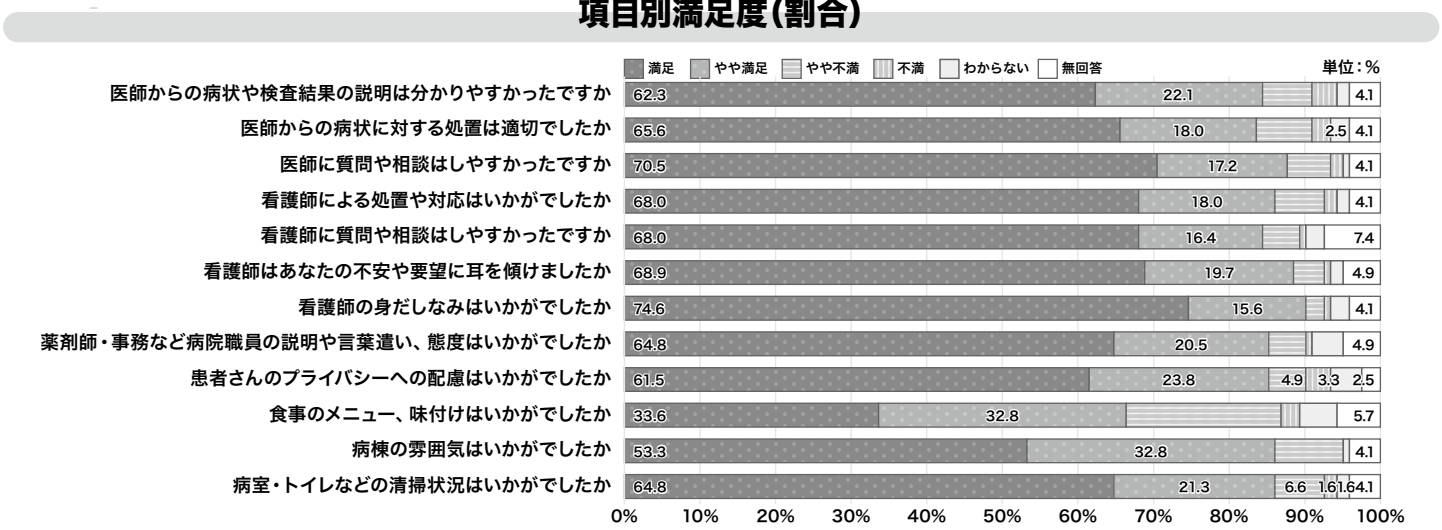
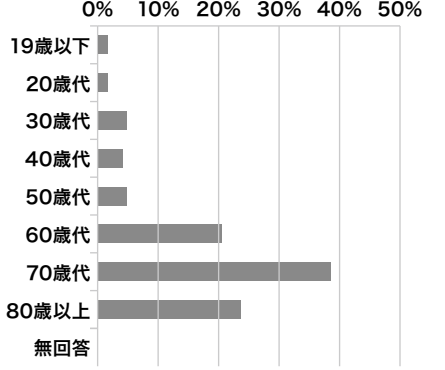
調 査 概 要

- 調査期間 令和7年7月15日（火）～7月29日（火）15日間
- 調査方法 無記名アンケート
- 期間中退院患者数 280人
- 回答者数 122人
（回収率27.7%/男性57人,女性63人,無回答2人）

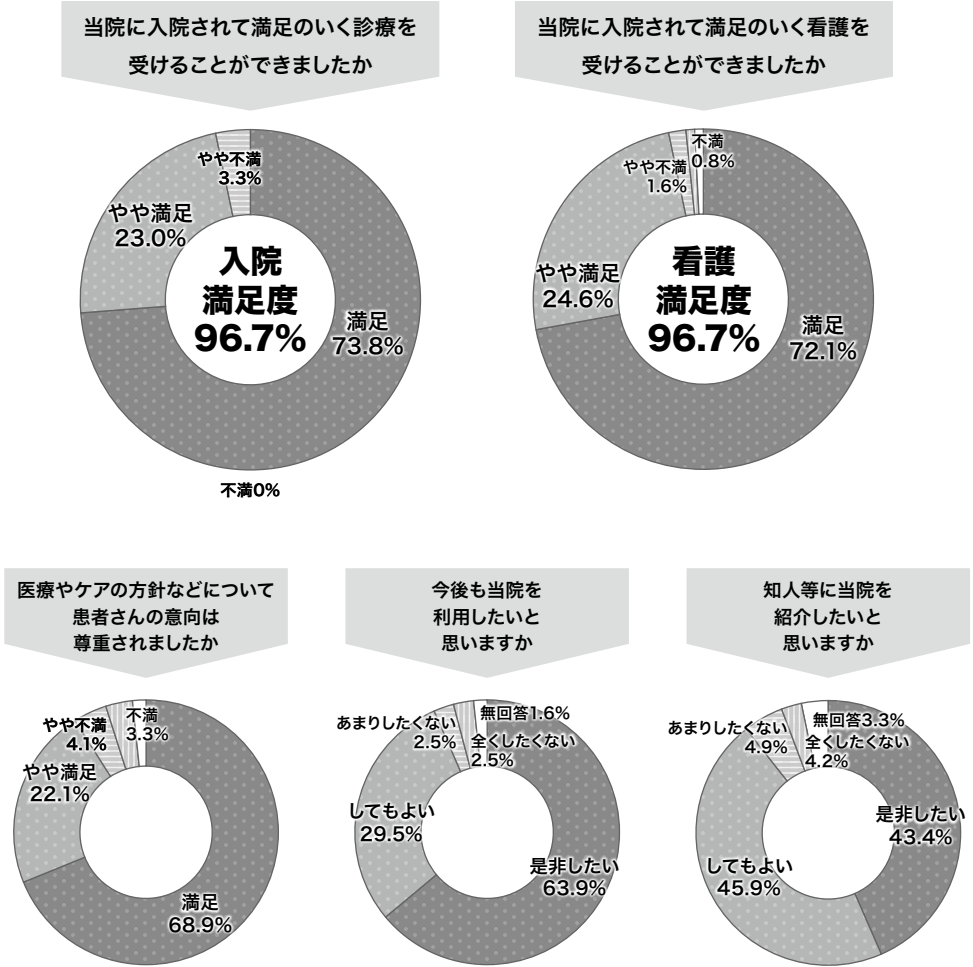
回答者性別割合



回答者年齢区分割合



項目別満足度(割合)



シリーズ職場紹介

外来



外来は病院の「顔」となる場所です。地域の皆様の健康を支えるため、安心・安全に診療や治療を円滑に受けられる環境づくり、個々の患者さんに応じた援助を行うことに努めています。外来は主に救急外来・腎センター・内視鏡室・化学療法室に分かれています。救急外来は、急な病気や事故で治療を要する患者さんが訪れる場です。地域の二次救急医療機関として24時間体制で救急車の搬送受け入れや、直接来院された患者さんへの対応が中心となります。診察・処置介助、看護ケア、医師の指示のもと検査を実施します。直接来院された患者さんはトリアージを行い、緊急度に応じて診療

ができるよう医師と相談しながら対応します。また患者さんだけでなく家族も心配や不安を抱えており、寄り添えるよう声掛けを大切にしています。救急外来は日々様々な症状の患者さんが運ばれてきます。状態を見極める判断力、幅広い知識・技術、重篤な患者さんに冷静に対応する精神力などが求められますが、その分やりがいも大きいです。

腎センターは血液透析を行う場です。血液透析とは正常に機能しなくなった腎臓のかわりに体内に溜まった老廃物や毒素、余分な水分をろ過する治療のことです。1週間に3回、3〜4時間半の治療を行います。当院は月・水・金の午前と午後、火・木・土の午前に行なっており、医師、看護師、臨床工学技士を中心に協力し安全に透析を行えるよう努めています。また通院透析患者さんの高齢化が進み、フレイルの進行が問題になってきています。そのため透析中に腎臓リハビリテーションを行なっています。透析中に運動を行うことで透析効率向上にも繋がることわかりました。

内視鏡室はおもに食道、胃、十二指腸、大腸などの中に内視鏡を挿入し、

異常がないか検査を行う場です。医師、看護師、検査技師など様々な専門スタッフと連携して処置にあたっています。患者さんのサポートを行い、検査について理解しやすいように説明し、前処置を実施します。内視鏡検査中には、患者さんの安全確保のために、状態をモニタリングし常に検査中の状況を把握し、必要に応じて医師や他のスタッフと連携を取ります。

化学療法室は抗がん剤治療を受ける場です。がんと診断された患者さんは、短い期間で多くの意思決定を行いながら抗がん剤治療を開始します。治療開始時や途中で気持ちが揺れ動く患者さん・家族は少なくありません。そのような患者さんに寄り添い共に考え、医師・看護師・薬剤師など多職種と連携し、がんであっても自分らしく社会生活が過ごせるよう支援していきます。

外来はたくさんさんの部署に分かれています。スタッフ同士コミュニケーションを欠かさず協調性やチームワークを大切に日々頑張っています。病院の「顔」として、患者さんが地域で安心して過ごして頂くためにこれからもチーム連携を大切にしていきます。

紙上ナイトスクール

新型コロナウイルス感染拡大の影響によりナイトスクールを休止していますが、予定していた講義内容の一部をお届けします。



慢性腎臓病（CKD）というこじばをどう存じでしようか？

腎臓病療養指導士 佐俣 美奈

慢性腎臓病とは？

慢性腎臓病とは、腎臓の働き（eGFR）が健康な人の60％未満に低下するか、あるいはタンパク尿などの腎障害が3か月以上続く状態を言います。

日本では現在、約2,000万人の慢性腎臓病患者さんがいると推定されます。これは、成人の約5人に1人にあたる数で、新たな国民病として注目されています。

加齢により腎機能は低下するので、高齢者になるほど慢性腎臓病が多くなります。

高血圧、糖尿病、肥満、コレステロールや中性脂肪が高いなどの生活習慣病、家族に腎臓病の人がいる人は要注意です。また、生活習慣病は狭心症や心不全、脳梗塞などの心血管病を引き起こす危険性を高めます。

つまり、腎臓を守ることは心臓や脳を守ることに繋がります。

慢性腎臓病の初期には、ほとんど自覚症状がありません。貧血、疲労感、むくみなどの症状が現れたときには、病気がかなり進行している可能性もあります。定期的に血液検査や尿検査を受け

ましよう。

病気がある程度進行してしまうと腎臓の機能は元には戻りませんが、早期発見・早期治療によつて進行を遅らせることができます。

慢性腎臓病の予防には血圧の管理・減塩などの生活習慣の改善が重要です。

当院では、腎臓の機能を大切にするために、外来で透析予防指導をおこなっています。

医師・看護師・薬剤師・栄養士・理学療法士などの多職種がチームで連携し、患者さん一人ひとりに合わせた包括的なサポートを提供します。

もし、腎臓病が進行してしまったら

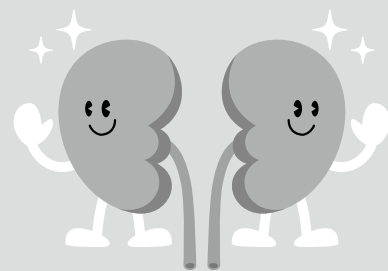
腎臓の働きが低下し、自分の腎臓で健康状態を維持できなくなった場合には選択できる治療法があります。それは『血液透析』『腹膜透析』『腎移植』です。

これらの療法にはそれぞれ長所・短所があります。生活環境やライフスタイルなどについても考慮し、自分に最も適した療法を選択できるよう、医療チームがサポートします。

自分に合った治療を納得して選ぶために医療スタッフと患者さん・ご家族と一緒に考えましょう。「肝腎かなめ」と言われるほど、腎臓はとても重要な臓器です。

早期発見、早期治療のためにも定期的に健康診断を受け、異常が指摘されたら再検査を受けることがとても大切です。

気になることや、疑問があれば主治医の先生に相談してみてください。



私も子育てをしながら仕事と両立してきた一人ですので、仕事と育児の両立はとても大変なことだと思います。完璧にやろうとする行き詰まってしまうので、手を抜くことも大切。一人で頑張っても限界があるんですよね。若いときはなるべく義母にお願いしな

Q5 育児と仕事の両立について、 お考えを教えてください

患者さんを看護するときは、自分が患者だったら、自分の大切な家族だったらどうして欲しいのか、一人一人がしっかり考えて、ケアを行うことが大切だと思います。仕事のやりがいや魅力にもつながりますけど、こちらの声のかけ方や話し方次第で、患者さんの語りも変わると思います。コミュニケーションをとる力は、とても大事だなと思います。たくさんの人とコミュニケーションをとることで、いろいろな考え方に触れることができますし、多様な価値観を学ぶ場にもなります。患者さんの持つ価値観を、こちらがよく理解して接することで、患者さんは、より本音をお話くださると思います。コミュニケーションが苦手というスタッフもいるかもしれませんが、是非、ここは頑張ってもらいたいなと思っています。

Q4 看護師たちへ伝えたいこと、 思いなどがありますか？

患者さんを看護するときは、自分が患者だったら、自分の大切な家族だったらどうして欲しいのか、一人一人がしっかり考えて、ケアを行うことが大切だと思います。仕事のやりがいや魅力にもつながりますけど、こちらの声のかけ方や話し方次第で、患者さんの語りも変わると思います。コミュニケーションをとる力は、とても大事だなと思います。たくさんの人とコミュニケーションをとることで、いろいろな考え方に触れることができますし、多様な価値観を学ぶ場にもなります。患者さんの持つ価値観を、こちらがよく理解して接することで、患者さんは、より本音をお話くださると思います。コミュニケーションが苦手というスタッフもいるかもしれませんが、是非、ここは頑張ってもらいたいなと思っています。



職員インタビュー

看護部長、教えてください！

～篠崎美和子部長にうかがいました～

【インタビュアー】
看護師 楠本真純・大塚友美



Q1 看護師になったきっかけを 教えてください。

平成元年に正看護師の資格を取得しましたので、なんと36年になります。人の役に立ちたいという気持ちもありましたし、手に職をという母の勧めもありまして、4人姉妹全員が看護師になりました。姉が働いている姿も、影響していたと思います。

Q2 看護師をしていて、心に残る エピソードがあれば教えてください

看護学生の頃、実習で肺癌の患者さんを受け持った時の話です。体を拭かせていただき、患者さんが「気持ちよかった」と、涙を流して喜んでくれたんです。その方は余命もわずかな方で、私も嬉しかった。それから週末をはさんで、次の実習に行きましたところ、その方はお亡くなりになっていました。最後にお会いした日に、喜んでいただけて良かったという思いがあつて、同時に「ああ、これからも頑張って看護師を目指そう」と、そんな風に思いました。



今も昔も、明るく元気よい部長

いようにと思い、自分で頑張る！と思った時期もありました。でも結局そのしわ寄せが子供にいつてしまつ、とかね。ですから、協力してもらええる時には、まわりに甘えていいんだよって思います。ご家族だけじゃなく同僚やお友達、地域のサービスを使っても良いと思います。そして自分もちょっとリフレッシュすることが大切です。無理せず長く続けていただけたらと思います。



Q6 普段ご自身が行っている、 リフレッシュの方法など ありますか？

韓国のドラマを観ることが好きです。癒しの時間になりますね。コロナ流行の前には韓国旅行に何度も行きました。また、最近健康のために、夕食後に30分程度、夫と散歩しています。毎日は歩けないので、週2回以上を目標にしています。足腰大事して、年をとっても、いろいろな所に行きたいなと思っています。

Q3 看護部長としての 今の思いを教えてください

看護部長になって11年が経ちます。これだけ続けてこられたのは、やはり、人に恵まれたおかげだと思います。スタッフ達に助けられて来ましたが、困った時は必ず協力していただきました。看護師の仕事は、時に大変な思いもしますし、それぞれ思うことがあるとは思いますが。それでも、皆さん頑張ってきてくれて、皆さんのおかげで今がありますから、とても感謝しています。



懐かしの消防訓練（中央）

Q7 この地域の課題や当院の役割について、 どのように思われますか？

この地域には、高齢の患者さんがたくさんいます。地域と共同して、地域包括ケアシステムを構築していくことがとても必要だと感じています。住み慣れた場所で、最後まで長く生活を続けたいという方はたくさんいると思いますので。

そのために、患者さんが地域の中でどんなふうに住生活を送ってきた方なのか、きちんと情報収集することが重要です。患者さんの意向が尊重できるよう関わりながら、地域の皆さんが安心して暮らしていけるように、地域に必要とされる病院であり続けることが、役割だと思っています。職員一同、地域の皆さんとも連携しながら、頑張っていければと思います。



リハビリテーションの関わり

おうちに帰る準備

－実際の環境調整について【階段昇降編】－

1・2病棟外来リハビリ係長 理学療法士 高橋 茂

退院して自宅での生活に戻るにあたって、寝室などの生活スペースをどこにするのかは重要なポイントになります。病前は2階の寝室で就寝しており、退院後は生活スペースを1階に移すことを提案することが多くあります。しかし、どうしても2階で生活しなければならない場合もあり、その際には階段昇降動作の確立が必要になることがあります。そこで、今回は階段昇降についてのお話をしたいと思います。

まず階段の種類ですが、大きく分けて5つあります。「直階段」、「かね折れ階段」、「折り返し階段」、「回り階段」、「らせん階段」です。直階段は1階から2階までを直線上の階段で繋ぐ階段で勾配が急になりやすく、踏み外した際は1階まで転げ落ちてしまう可能性があります。かね折れ階段は途中で90度折れ曲がるように向きを変えて昇降する階段です。折り返し階段は途中で踊り場があり180度向きを変えて昇降する階段です。回り階段は折り返し階段の踊り場がなく、踏板が三角形になっている階段になります。らせん階段は中心の支柱の周りをまわるように昇降する階段です。

一般的な住宅ではかね折れ階段や回り階段が多いのではないのでしょうか。これらの階段は途中で踊り場があるものもありますが、曲がる部分の踏板が三角形になっていて踊り場がないものも多くあります。その場合、回る中心付近で昇降しようとすると、踏板が三角形になっている影響で足を置くスペースが狭くなり踏み外してしまう危険性が高くなります。住宅改修などで手すりを設置する場合には、内側ではなく外側に設置する方が安全であると思われます。

また、階段以外にも上がり框や玄関前のアプローチなどで段差昇降を必要とする場面は多くあります。昇降動作においては、段を一段ずつ昇降する「一足一段」と足を揃えながら昇降する「二足一段」の動作があります。筋力やバランス能力に問題がない方は一足一段での動作で行うことができますと思いますが、片麻痺や片脚の手術後の方などで下肢の能力に左右差がある場合には二足一段での動作のほうが安定します。健側から昇って患側を揃え、降りる際には患側から降りて健側を揃える動作になります。この動作では常に健側を高い位置に置くことになります。階段昇降での筋活動は昇る際は求心性収縮、降りる際は遠心性収縮になります。遠心性収縮の方が筋肉に対する負荷は強いと言われており、特に降段の際には二足一段での動作を行う方が安全と思われます。

いずれにしても、昇降動作は比較的難しい動作になります。入院中からしっかりと練習して退院する準備を進めていければと思います。



★スタッフの活動紹介★

理学療法士 高橋 茂 作業療法士 山浦 卓哉

介護予防サポーター養成講座での講師を務めました！

当院は、群馬県から富岡甘楽地域リハビリテーション広域支援センターの指定を受けており、当地域での地域リハビリテーションを担っています。活動の一環として、市町村から介護予防サポーター養成講座の講師を依頼されることがあります。この講座は、地域で自主的に介護予防の活動を行おうとする方や、市町村等の介護予防事業でボランティアとして活動したい方などを対象に、介護予防に関する知識や技術を身につけていただく研修で、初級、中級、上級のコースがあります。

今年度南牧村で行われた中級の養成講座では、当院の作業療法士山浦と、理学療法士高橋とで講師を務めさせていただきました。実技を交えながら介護予防に必要な知識を学ぶ場として、山浦は認知症予防について約60分の講義、高橋が運動機能の向上について約90分の講義を行いました。みなさん真剣な顔つきで話を聞いてくださいました。

群馬県の高齢化率は全国的な平均値よりも高く、その中でも富岡甘楽地域はさらに高い地域となります。地域の方々が生き生きと、暮らし慣れた地域で生活できるように、今後も関わっていききたいと思います。（高橋）



介護予防サポーターの区分

初級コース	介護予防の必要性や方法を理解し、隣人などに広められる。
中級コース	介護予防の全般的な知識を身につけ、介護予防事業のサポートができる。
上級コース	ボランティア等で経験を積み、地域のリーダーとして自主的活動ができる。

（群馬県ホームページより）

